

つね



アメリカ婦人会総会

去る5月16日(土)、アメリカ婦人会総会が開催されました。午前中の総会式典に続き、午後からは「ファミリーバーベキュー」が記念行事として開催され、婦人会員とその家族、友人、約200名が楽しいひと時を過ごしました。また同日、こかん様に続く会も開催されました。12-13 頁に関連記事

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.943



TenrikyoAmericaCanada.org

JUNE
2026



つらつらせんがく 熟々浅学



— 温もり —

今月 20 日、少年会アメリカ団の「少年会おつとめまなび総会」が開催されます。一人でも多くの少年会員が参加して、無事に開催されることを願っていますが、大勢の育成会員の皆様のご協力をお願いいたします。

来月には青年会インターナショナルひのきしん隊がおちばにて結成され、こどもおちばがえりも開催されます。どちらの行事にも、一人でも多くの方にご参加いただきたいと願っていますが、こどもおちばがえりには大勢の育成会員（大人）のお手伝いが必要になります。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、過去に「レコードの復活」（2023 年 9 月号）と「カセットテープ復活」（2025 年 12 月号）というタイトルで「熟々浅学」を書きました。そこでは、若い世代（Z 世代）がレコードやカセットを新鮮に感じ、「アナログ」を再評価している現象について触れました。彼らは、レコードをジャケットから取り出し、ターンテーブルに乗せ、針を落として音楽を聴く、或いははカセットをデッキにセットするといった手間のかかるアナログ的なプロセスを、ある種の「儀式」や「心地よい体験」として楽しんでいます。

また、これらのメディア（媒体）は「若者たちに所有する楽しみ」も提供しているようです。ストリーミング配信の音源は便利ですが、スマートフォン（以下、スマホ）やパソコンのデータでしかなく、「音楽を自分のものにする」という実感が持ち難いのでしょうか。好きなアーティストを応援する証として、音楽を「形」にして所有したいという欲求が、

レコードやカセットを購入して楽しむというアナログ回帰の一因ではないかと想像します。何よりも私の興味を引くのは、音質に対する彼らの感性です。CD やダウンロード音源は確かにクリアで透き通って聴こえます。対してレコードは、針が触れている際に「プチプチ」というかすかな雑音が聴こえます。ですから、純粋な音の透明度ではデジタルが断然勝っているはずですが。

しかし、そのクリアさには、どこか温かみが欠けているように思えてなりません。「カセットテープ復活」の回で述べたように、人には心地よさや温もりを求める自然な心の働きがあり、若者たちもまた、デジタルにない「質感」を求め始めているのではないのでしょうか。

私自身、普段は効率を求めることが多い人間だと思います。できるだけ無駄を省きたいと考える人間です。しかしながら、「効率」を追い求め過ぎるあまり、いずれどこかで間違った選択をする、間違った方向に向かってしまうことが生じるのではないかと考えています。

確かに、日常生活において効率化は必要不可欠な知恵だと思います。無駄な動きをして時間だけ浪費してしまっていることは、日々の生活の中で多くあると思います。効率的に行動することにより、時間が節約され、その節約した時間を他のことに使うことができます。

例えば、月次祭後にお下がりを書者宅に届ける際、信者さんの不在の時間帯や道路の渋滞を考慮して道順を考えることは、時間を節約し、他の用事に充てるために大切なことだと思います。

掃除においても、手順を考えることがあるでしょう。まずは窓を開け、高い所、つまり天井などから掃除を始め、その後、床に掃除機をかけ、最後にテーブルなどを水拭きするという「理にかなった手順」を考えるでしょう。そうすれば、綺麗な掃除ができると思うのです。しかし、この作業を逆に行えば、二度手間となり時間を浪費してしまうのではないのでしょうか。

和食料理においては、「さしすせそ」という調味料の順番があるそうですが、特に煮物などで味が染み込みやすくなるように、砂糖(さ)→塩(し)→酢(す)→醤油(せ)→味噌(そ)の順に調味料を使うと、素材の良さを引き出し、美味しくなるとのことです。しかし、この順番を間違えると、せっかくの料理が台無しになってしまうらしいのです。

このように、順序を決めて効率的に行動することは、無駄を省き、時間を節約する上で極めて重要です。

しかし一方で、無駄を省いて効率を追い求め過ぎるあまり、私たちは「大切なモノ」を失うこともあるのではないかと考えるのです。

特に人を育てる「人作り」に関しては、手間をかけることこそが本質ではないかと思えます。効率を最優先すれば、人としての「温もり」が失われかねません。若者がアナログ音源に安らぎを見出すのは、クリアな音だけでは満たされない「心の充足」を、無意識に求めているからなのではないかと思えるのです。Z世代がアナログ的なレコードやカセットテープで音楽を聴く現象が起きていることを鑑みた時、彼らはただ単に音楽を聴くことだけを追い求めているのではなく、アナログ的な音楽を聴くことで「温もり」を得たいとの潜在的な心の現象の現れではないかと思えるのです。CDやストリーミングでクリアな音質の楽曲を聴くだけでは、心に安らぎを得られないことに、若者たちは気づき始めているのかもしれません。

これからAI(Artificial Intelligence)が世

界を席巻し、無人タクシーや産業用ロボットが当たり前のように社会を動かす時代が来ます。テクノロジーは確かに便利ですが、そこには人の温もりがあまり感じられないのではないのでしょうか。私たち人間には、やはり人と人とが触れ合う「体温のある世界」が必要だと思うのです。

お道の信仰は、まさにこの「人と人との関わり」を何より大切にしているのではないのでしょうか。「人作り」には手間暇が掛かり、一見非効率に見える、無駄のような行動や行事であっても、人と人との触れ合いが欠かせません。人は感情を持つ動物であり、ロボットのように効率的に動かす(育てる)ことはできないのです。豊かな感情を育むためには、泥臭くも温かい、アナログ的な関わりが必要なのではないのでしょうか。

最近天理教内でもオンラインで参加する行事や講習会などが増えましたが、それでも詰所などに寝泊して受ける講習会や研修会なども多く設けられています。これらは単に教理を学ぶだけ、或いは資格を得るだけの場ではないと思うのです。寝食を共にし、生活を分かち合うという濃密な「人と人との関わり」の中で、人間本来の温もりに触れ、多くの教えを身に付けられる「場」だと思うのです。

おさしづに、「育てるで育つ、育てにや育たん。肥えを置けば肥えが効く。」(明治21.9.24、陰暦8.19)、「大きい心を持って通れば大きい成る、小さい心を持って通れば小そうなる。」(明治21.7.7)、「育てるといふは、心だけの理を以て育てる。」(明治24.3.23)と教えていただきます。

人を育てる上で「近道」はないと思うのです。そこには、アナログなまでの「手間」と、相手を慮る「温もり」が不可欠ではないのでしょうか。

皆さんはどのように思われるのでしょうか。

深谷 洋

立教189年5月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、陽気ぐらしを楽しみに、紋型ないところからこの世人間をお創めくされ、永の年限、天地の恵みを始め、身の内に至るまで、普く御守護をくされ、今も変わることなくお守り、お育てくださいます温かき親心の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、この御厚恩を片時も忘れることなく、朝に夕に厚く御礼申し上げ、及ばずながらも御恩報じを念じて、たすけ一条の道を通らせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の五月の月次祭を執り行う目出度い日柄でございますので、只今より、おばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、勇み心と共に、座りづとめ、てをどりをつとめてさせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびたよふぼく、信者一同が参り集い、日頃賜る御厚恩に御礼申し上げると共に、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、アメリカ婦人会総会を滞りなく開催できまして、誠に有難うございました。道の台を自負する婦人会員たちが、一手一つになって会活動を推進し、更なる道の伸展に寄与できるようお導きの程をお願い申し上げます。

また、先月より今月にかけて、管内各地にてひのきしんデーを開催しておりますが、にをいがけの一助にもなりますようお願い申し上げます。

更にはまた、今月二十三日より二十五日まで、伝道庁に於いて学生会春季練成会を開催予定ですが、将来の道を担う学生たちが御教えを学び、心の成人を経て、有望な人材へと育ちますようお願い申し上げます。

私共は、世界にお見せくださる戦争や紛争、更には自然災害を鑑みて、親神様の思召を思案し、陽気ぐらし世界実現に向けて、にをいがけ、おたすけに邁進させていただく所存でございます。また、次世代に道を伝えると共に、管内の心を一手一つにして成人の道を歩みたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、一日でも早く、世界の人々が互いに手を取り合ってたすけ合う世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

5 月 月次祭神殿講話

Vancouver 教会長

西 リンダ

庁長先生、奥様を芯に5月の月次祭を陽気に勇んで勤めさせて頂き有り難い限りです。又、昨日はアメリカ婦人会が滞りなく行われ、続いてのバーベキューでは教友とその家族の方々が楽しめました。

本日、講話のお役を頂きましたのでご清聴願います。

2020年3月にこの場で講話をさせて頂く予定でしたが、コロナ中でカナダ政府の国外出入り禁止忠告もあり来させて頂けませんでした。お電話にて庁長先生に連絡と謝罪をさせて頂き、どうか講話を届けさせて頂けないか相談させて頂きました。その後、現代テクノロジーに長けているトレイシーにzoomではどうかと勧められました。大きなテレビを神殿に設置し、庁長先生、教友の皆様の姿を見させてもらいながら講話をさせて頂く事ができました。お役を勤めさせて頂けた事に感謝しています。

コロナ中、そして教祖140年祭三年千日の道中色々な節を見せて頂きました。一番大きな節は2021年の教会移転でした。様々な理由により教会移転を大教会長様にお願いさせて頂く事になりました。大教会長様の寛大な親心によりお許し頂き、さらにコロナ中ですので6月のお運びに帰国させてもらえない私に代わって大教会長様や上級の先生方が引き受けて下さった事とても感謝しております。教会の移転先は道向いにある私の大教会が何年も前に購入した布教の家で、老朽化した建物は屋根工事、電気工事、神殿拡大普請と多々の改修が必要でした。私の一番の心配は新しい神殿普請を誰に頼んだらいいのか、希望としては天理教を知ってる方。無理を承知で日本の大工さんを必死に探しましたが、見つかり



ませんでした。

幸運にもこの事がケイ会長の耳に入り、ケイ会長の信者でよふぶくのボブが私の教会より1時間程離れた所に住んでおられるという事で紹介して下さいました。

ご守護の賜りものです。“ボブ ザ ビルダー”（アニメのキャラクター）と孫が愛着深く呼んでいた彼と彼のチームは休むことなく教会普請に取り掛かり12月5日の移転奉告祭に間に合いました。

ボブと彼の奥様を来賓に、そして此花大教会ジョイアス布教所の信者の方々と共に陽気におつとめを勤めさせて頂きました。万全を期して皆マスクを着用し、高齢者の方には参加を控えて頂きました。

正直、神殿普請経験もない私は途方に暮れている日々がありました。しかし、親神様のお働きにより一步一步事が上手に進みご守護下さいました。これは亡き両親-初代会長と会長夫人の積まれた徳と信者の方々の真実のおかげであります。

徳は行く末で芽が出る種と同様、そして親神様にお受け取りいただけたなら、ご守護を受け取る基となります。親神様の思し召しに添い切りこの道を通るなら魂に徳を授かります。

おさしづに

不自由の処たんのうするはたんのう。徳を積むという。受け取るという。これ一つ、聞き分けにゃならん。

明治二十八年三月六日

おさしづにこうも示されています。

道を一分なりと尽くしてみよ。自分の徳はどのくらいか。

明治四十年四月九日

また、努力の奉仕と感謝と喜びの心で尽くす事は極めて重要であります。

このことはおさしづにも示されています。

泣く々するようでは神が受け取れん。百万の物持って来るよりも、一厘の心受け取る。

明治三十五年七月二十日

稿本天理教教祖伝逸話篇 1 4 4 話「天に届く理」に

「教祖は、明治 17 年 3 月 24 日から 4 月 5 日まで奈良監獄署へご苦労下された。鴻田忠三郎も 10 日間入牢拘束された。その間、忠三郎は、獄吏から便所掃除を命ぜられた。忠三郎が掃除を終えて、教祖の御前にもどると、教祖は、「鴻田はん、こんな所へ連れて来て、便所のようなむさい所の掃除をさされて、あんたは、どう思うたかえ。」と、お尋ね下されたので、「何をさせて頂いても、神様の御用向きを勤めさせて頂くと思えば、実に結構でございます。」と申し上げると、教祖の仰せ下さるには、

「そうそう、どんな辛い事や嫌な事でも、結構と思うてすれば、天に届く理、神様受け取り下さる理は、結構に変えて下さる。なれども、えらい仕事、しんどい仕事を何ぼしても、ああ辛いなあ、ああ嫌やなあ、と不足々々では、天に届く理は不足になるのやで。」

私の両親や信者の方々は限られた英語力でも陽気に勇んで教えを広めおたすけに励まされました。また、バザーをよく行い教会行事の資金にあてていました。私の母は教会前で天理教パンクバー教会の看板を指差し、パンフレットを手渡し中に入って神殿を見て行ってもらようよう促していました。この後に出く

わす困難を露知らずに。

今から 30 年前、教祖 1 1 0 年祭の年、教会は不安を脅かす節を見させて頂きました。三代目真柱様の意向で年祭の年に毎月本部の月次祭へ帰るよう皆に促されました。親の思いを受け取り私の父初代会長は毎月おぢばへ帰る事を決意しました。

父がおぢばで滞在中の 2 月末に 2 日間バザーを開催しました。3 月初旬に突然バンクバー市役所より検査員が教会を訪れ、この建物で教会をしていると苦情が入ったと言うのです。私は私たちが B C ソサイエティ法に基づき法人登録されてある事を伝えました。検査員は教会に関しての規制区域法について説明され、簡潔には一般住宅にての教会活動は禁止されてるという事でした。それ故に直ちに全ての活動を停止するようにと警告されました。彼女は続いて全ポスターの取り外し、椅子の撤去、更に辛いことに教会看板の撤去を指示しました。正式に認められる最善の方法は教会として登録された建物の購入でした。

父は帰って来た直後で、両親にこの悲報を説明しました。そして遂に私は気付きました。教会が閉鎖されることに。突然涙が溢れて来ました、そんな私を見て検査員の方は驚き、「なぜ泣いているの?」と聞かれました。私はこれまでの両親の苦勞、懸命に勤められて来た信者の方々、教会の上にどれだけ費やされてきたかを説明しました。そうすると、思いがけず彼女の表情が和らぎました。少し間をとった後、彼女は言いました。これ以前に苦情がなかったことから、神殿を一般家庭用の神棚として祀っている事にすると。それに付け加え、法人登録済みなので今現在信者としておられる方々は活動参加出来る事を。しかしながら教会看板は取り外し、一般人への宗教勧誘の禁止、十分な火災報知器の設置を義務付けられました。

看板取り外しはとても残念でしたが、おつとめを勤められる事、教会活動の存続に感謝しました。これはまさにご守護であります。このお礼に会長と信者の方々は家族や友人を誘

いこの110年祭中にできる限りおぢばへ帰らせてもらう心定めをされました。会長の12回、信者の方々の数回ものおぢばがえりを含め、全部で70回おぢばへ帰らせていただきました。

教会の核であるこの信者の方々の布教所時代からの熱心な信仰がバンクーバー教会設立の重要な役割を果たしています。彼等の誠真実、揺るぎない信仰にいつも感化されています。朝晩の教会日参から病気の方へのおさづけ取りつぎの申し入れを自然にこなされます。何年も前によくおぢばがえりされる信者さんがいました。後に腎不全が発覚し、透析が3日に1度必要になりました。それでも彼はおぢばがえりをやめることなく、憩の家や他の病院で透析を受けれるように手配しました。彼はこの神様に頼り切った姿を私に見せてくれました。

残念ながらこの信者さんは数年後に出直され、続いて4人もの中心核であった信者さんが2年のうちに亡くなりました。ほとんどの年配の信者さんは老人ホームでお世話になる事になり、それぞれが持ち込み出来る限りで神様を祀られています。そのうちの1人の方は毎日の日供でのおさがりのお米を丁寧に容器に保存され、いっぱいになると、神様のお下がりである事を説明しスタッフの方に渡されました。このスタッフの方は喜んで受け取られました。そしてこの94歳になる信者さんは施設の方全員に天理教である事への誇りと素晴らしい事を伝えられました。いつも私の訪問を喜んで下され、天理イキイキの時報と教会のおさがりを楽しみに待ってくれ、嬉しそうに他の施設の方々と分け合っておられます。彼女のこの姿は、この教えこそが真の教えである自信を持つ事の大切さを強調しています。最後に、もう1人、私に根本である「誠真実」の大切さを気付かせてくれた信者さん。彼女は60年以上信仰されていて、彼女の真実は変わらずまます。長年の間、彼女は旦那さんと一緒に毎月の5日、16日、23日上級と大教会の月次祭日に参拝に来られました。



もちろん本部の月次祭日である26日も。コロナ中は「電話参拝」を考案され、今もなお実施されておられます。彼女はまた家族1人1人の誕生日にお酒をお供えし彼女の真実を表されました。始めは5人家族でした。年が過ぎ、家族が増えお酒の本数も増えました。彼女は91歳にもかかわらず、よく動き、私が他の年配の信者さんのおさづけと一緒に訪れてくれ、月次祭の祭典にも出てくれています。私は結構にも素晴らしい道の手本となる方々に恵まれ、真実の種まきを見せて頂きました。私はこの方々の苦勞、勤め、尽くしを親神様にお受け取りいただけるようお願い申し上げます。

おさしづにもあるように
これまで運ぶ尽くす理は、しいかり受け取ってある。生涯末代理に受け取ってある。

明治三十二年六月二十八日
ご清聴ありがとうございました。





伝道庁連絡



5 月 月次祭

祭主 庁長
 扈者 雪本善 増野大助
 賛者 富澤ポール 野町ジョナサン
 指図方 中富淳次郎
 神殿講話 西リンダ（英）

教会・布教所事情

フェローシップオブジョイ布教所
 住所・電話番号変更

お出直し

福井陽一主事・ニューヨークセンター所長・ニューヨーク富中布教所長が5月25日午後8時20分に出直されました。満64歳。みたまうつしは5月29日午後7時、告別式は5月30日午前10時より南紀詰所にて執り行われました。ご生前のご功績に厚く御礼申し上げます。

第 86 回アメリカ修養会

本年予定しておりました第86回アメリカ修養会は、志願者数が規定を満たさなかったため、中止とします。

天理教語学院（TLI）日本語科出願

出願資格：次の条件（教育課程、日本語能力）をいずれも満たしていること

1. 本国で正規の課程による12年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
2. 出願時に「日本語能力試験 N5」または「N5相当」の日本語能力を有する者

出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験 N5 の合格証明書が必要となります。

- ・ TLI では、日本語能力 N5 以上を有しない出願予定者に対し、出願前の5月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設けていますが、8月1日～31日までに出願者全員がオンラインで受験が必要です。
- ・ 実力認定試験の結果、TLI が N5 相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図る予定です。

願書の配布について：

- ・ 願書は4月25日よりダウンロード配布が開始されています。同時に、事前学習及び実力認定試験に関する案内も行っています。

出願締切：9月28日

詳細は、以下のサイトをご確認ください。
https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/?page_id=497

修養科スペイン語クラスについて

9月1日から11月27日まで、修養科スペイン語ク

ラスがおぢばにて開講されることになりましたので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教会長資格検定講習会について

例年9月27日から、5名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、本年より10月27日から開講することになりました。

アメリカれつ会新規扶育生募集

2026年のアメリカれつ会新規扶育生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子弟子女で、大学入学が決まっている方です。扶育を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6月30日（火）です。新規扶育生は8月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4年目の扶育生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8月31日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

伝道庁人事

2024年4月14日から青年として勤めていました林慶信氏（名東）は、任を終えて2026年5月5日に帰国しました。

6月2日、海外部員の田中吉之（よしゆき）氏（本部）が伝道庁青年として着任しました。右写真



各 会 連 絡

ふしん

- ・ 布教の家の排水管が傷んでおり、現在は使用できているが修理をするか検討をしている。
- ・ 大きい駐車場の木の剪定を行う予定。

布教委員会

- ・ 教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、有難うございます。以下に8月までの当番をお知らせ致します。

7月：弓削ロバート、中川一二三

8月：岡崎宏子、田所レイ

教化育成委員会

- ・おやさと練成会に向けて、アメリカのおやさと練成会委員会のスタッフと保護者、ハワイのスタッフや保護者と合同オリエンテーションを行い、25名が参加しました。(Zoom) 学生の保護者や、所属の教会長の中で質問がある方がおられましたら、おやさと練成会小委員会までお問い合わせください。
- ・アメリカから参加する6名の学生は、プリセミナーのため7月10日から名東詰所に宿泊します。
- ・TSA 春季練成会が無事開催され、15名の学生が参加しました。期間中の講義で教理を学び、それを日々活かす方法を学びました。さらに、お楽しみ行事や今年のこどもおちばがえりに向けたダンスコンテストなどを通して、お互いの絆を深めました。

広報委員会

- ・各地で活動されている方々の情報を「陽気ぐらしだより / Joyous Life Here & There」として「一れつ・ニュースレター」に掲載し、管内の皆様と共有させていただきます。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

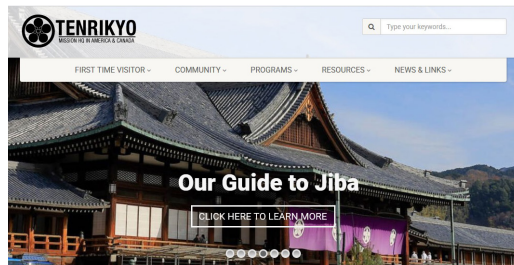
情報提供先

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用頂けるように作成し、常にアップデートを努めており、「Our Guide to Jiba」が更にアップデートされています。是非、伝道庁ホームページをご覧頂き、また周りの方々にも紹介頂きますようお願い致します。

Domain Name: TenrikyoAmericaCanada.org



2026 TSA Spring Conference

Posted on June 3, 2025 | Posted by Takahito Hayashi | Categories: Community News



婦人会

- ・シアトル地区婦人会総会
2026年8月22日(土) 午前11時
於: ハイシアトル教会
- ・サンフランシスコ地区婦人会総会
2026年8月29日(土) 午前10時
於: マリーナ教会
- ・シカゴ地区婦人会総会
2026年8月30日(日) 午前10時30分
於: ミッドウエスト教会

少年会

- ・少年少女練成会、及びおつとめまなび総会が6月19日(金)、6月20日(土)に伝道庁にて開催されます。
- ・アメリカ・カナダ・ハワイ団のこどもおちばがえり・海外少年ひのきしん隊が7月24日(少ひは25日)から30日まで開催されます。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。



青年会

- ・アメリカ青年会総会を8月15日(土) 午前10時30分より開催します。今年は青年会本部より委員をお迎えします。総会後は行事、また夜にBBQをしますので、ご参加ください。

NY センター

- ・7/20 天理文化協会にて日本語教師養成講座を開講予定(～25日)



福井陽一先生を偲んで



福井陽一所長先生のお出直しの知らせに接し、深い悲しみの思いでいっぱいです。福井所長は、私たちニューヨークの家族にとってかけがえのない存在であり、そのお姿が見られなくなることは、計り知れない寂しさがあります。

福井所長は、誠真実と優しさに満ちあふれた、本当に素晴らしいお方でした。天理文化協会創設においては、事務面、そして日本語教師として大きな役割を果たされ、ニューヨークセンター黎明期には、森下敬悟先生を支える右腕として尽力されました。また、天理文化協会主任としてTCIを経済的自立へと導き、その発展の礎を築かれました。そして最後には、ニューヨークセンターの所長として、教祖140年祭に向かう「三年千日」の道のりを私たちに導いてくださいました。

何よりも、福井所長は、自らの姿をもって道を示される所長であり、信仰者でありました。常に低い心で通られ、人々に勇気と喜びを与え、所長のもとを訪れた人が、心晴れやかにならずに帰ることはありませんでした。困っている人を決して放っておけないお方であり、その温かな心は、大人や子供だけでなく、動物や植物にまで注がれていました。居場所を失った人や、助けを必要としている人に、いつも寄り添われていました。

ある時、福井所長がニューヨークの街を歩いておられた際、突然倒れた方に遭遇されたという話を聞いたことがあります。所長はためらうことなくその場でおさづけを取り次がれました。救急隊員が到着して「下がってください」と声をかけても、その方は「先生がおさづけを終えるまで待ってください」と言われたそうです。その姿こそ、福井所長そのものでした。真実とたすけ心を自然に実践されるお方でした。

私にとって福井所長は、自分自身が目指したい生き方の模範です。常に人のために思い、自らを後にしてでも、人々のたすかりと幸せのために尽くしてくださいました。

治療のため日本へ帰られる前、福井所長は、この節について「これは親神様からの“プレゼント”なんです」とお話しくださいました。皆が心をつにし、この節を乗り越えるために与えてくださったお働きなのだと。そして、ニューヨークセンター50周年記念祭を、陽気ぐらしの手本となるような、本当に喜びあふれるお祝いにしてほしいと願っておられました。

福井所長は、肉体のお姿では50周年を共に迎えることは叶いませんでした。しかし、所長の真実、

教え、そしてお通りくださった姿は、今も私たち一人ひとりの心の中に生き続けています。

私たちは、福井所長への感謝の心を胸に、心を一つにして、所長が願われた通りの、陽気な勇み心あふれるニューヨークセンター 50 周年記念祭をつとめさせていただきたいと思います。

弓削マイケル
ニューヨークセンター

福井先生の追悼記事は、ニューヨーク・セイカツ新聞にも掲載されました。(右：記事写真)



全教一斉ひのきしんデー

5 月 16 日 伝道庁

月次祭前日に、伝道庁周辺の清掃ひのきしんが行われました。



天理教ニューヨークセンター所長、ニューヨーク天理日本語学校長の福井陽



NY天理日本語学校 福井校長が死去

一氏が、5月25日死去した。享年64歳。4月にかん治療のため帰国していた。北海道留野市出身。天理大学外国語学部英米学科卒業後1990年来米、91年ソ・ホ1での天理文化協会設立に携わり、その後35年以上にわたりニューヨークを拠点に、日本文化と精神の伝播に尽力した。日本

マート・ローウィル
オートバイレーサー
1971年のドキュメンタリー映画『オン・エニ！サンデー』でマイク・マックラインと共演したデ

語学校、ギャラリーやコンサート会場で来場者を温かい笑顔で迎えるその姿は、多くの人々に深い信頼と安らぎを与え続けた。活動は日本語教育、芸術、国際交流と多岐にわたる。コロナウイルスでの雅楽指導や、若田光一宇宙飛行士への「笹（しやう）」の宇宙ステーションでの演奏に向けての指導など、「天と地」を繋ぐような壮大な情熱を持って数々の事業を完遂した。また、私生活においても夫婦で交換留学生のために自宅を開放し、家族



アメリカ婦人会総会

4月25日

アメリカ婦人会総会が5月16日（土）に開催されました。鳴り物を入れ、一手一つに参加者全員で12下りの総立ちが勤められ、式典は全て英語で進められました。会務報告の後、本会からの祝辞を聞かせて頂き、それぞれがそのお言葉を胸に治めました。さらに庁長祝辞、主任挨拶、新入会員紹介と続き、最後に全員で婦人会歌を歌い、心勇む総会となりました。

その後、記念行事では、「ファミリーバーベキュー」が開催され、婦人会員の家族、友人も招待されました。遠くはカナダから、又飛行機で5時間かかる東海岸からも集まり、約200名で美味しいバーベキューを味わい、ラッフルゲームを楽しみ、一つの大きな家族のように和んだ時間となりました。





女子青年のこかん様に続く会も開催されました。下写真



TSA 春季練成会 5月23日～25日

2026 年度 TSA 春季練成会が、メモリアルデーの週末、5月23日（土）から25日（月）にかけて、アメリカ伝道庁にてにぎやかに開催されました。

今回は、15歳の高校生から20代の大学生まで、計15名が参加しました。練成会を振り返り、TSA 会長の富澤カイリさんは、「今回の練成会は教会への理解と感謝を深めるとともに、友情を一層育み、多くの思い出を築くことができ、素晴らしい機会となりました」と述べました。

参加者は、管内教会長による講話を通して、「心のほこり」をはじめとする教理への理解を深め、困難を乗り越え、若者として陽気ぐらしを実践するための具体的な方法を学びました。さらに、大学生の TSA メンバーからは、実際の大学生活における課題や体験談が共有され、教えがどのように心の支えとなっているかについて、貴重な助言と励ましを得ることができました。

日曜日には、伝道庁スタッフとともに、草引きや庁内整備のひのきしんを行い、親神様に日々ご守護いただいていることへの感謝の心を表す機会となりました。

また、レクリエーションとして、プエンテヒルズの Round1 を訪れ、楽しいひとときを過ごし、互いの絆をさらに深めました。

充実した三日間を通して、参加者にとって楽しく思い出に残る練成会になったことはもちろんのこと、信仰と友情を深め、それぞれの成人を進める大変意義深い行事となり、今後のさまざまな活動に向けた大きな一歩となりました。





SOULFIRE

TENRIKYO FAITH GATHERING

2026年11月14日(土)

10:30 AM - 16:00 PM

Tenrikyo Mission Headquarters of America & Canada

2727 East First Street, Los Angeles, CA 90033



<https://tenrikyoamericacanada.org/tfc>



@tenrikyo.faith.conference



www.facebook.com/soulfiretfc/

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

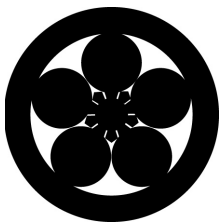
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all human-kind. God the Parent is God of original and God in Truth-who created thi world and has nurtured and protected us ever since.

God the Parent created human beings so that by seeing us lead the Joyous Life, God could share in our joy. Leading the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children; thus we should realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that we borrow from God the Parent and only our minds truly belong to us; further, through the proper use of our minds, we will be able to lead the Joyous Life.